

# DPCデータによる病院指標

## 1 はじめに

DPC制度とは、平成15年より導入された急性期入院医療を対象とした包括評価制度のことです。DPCは、Diagnosis Procedure Combinationの略で診断群分類を意味します。

DPC制度では、一般病棟の入院患者のうち、医療保険の適用となる方を対象とし、歯科入院となる場合等は含みません。そのため、以下は対象外となります。

- ・自動車賠償責任保険や労災保険、自費等の患者
- ・一般病棟を一度も使用しなかった患者等
- ・歯科治療のため、入院した患者等

## 2 当院の指標作成と公開の目的

市民の方々に情報公開をすることで現在の急性期医療について、理解を深めていただくこと、さらに当院の持つ様々な機能の質について、適切な指標を用いて数値化し、その数値について分析することで医療サービスの向上に対する職員の意識形成を図ることを目的としています。

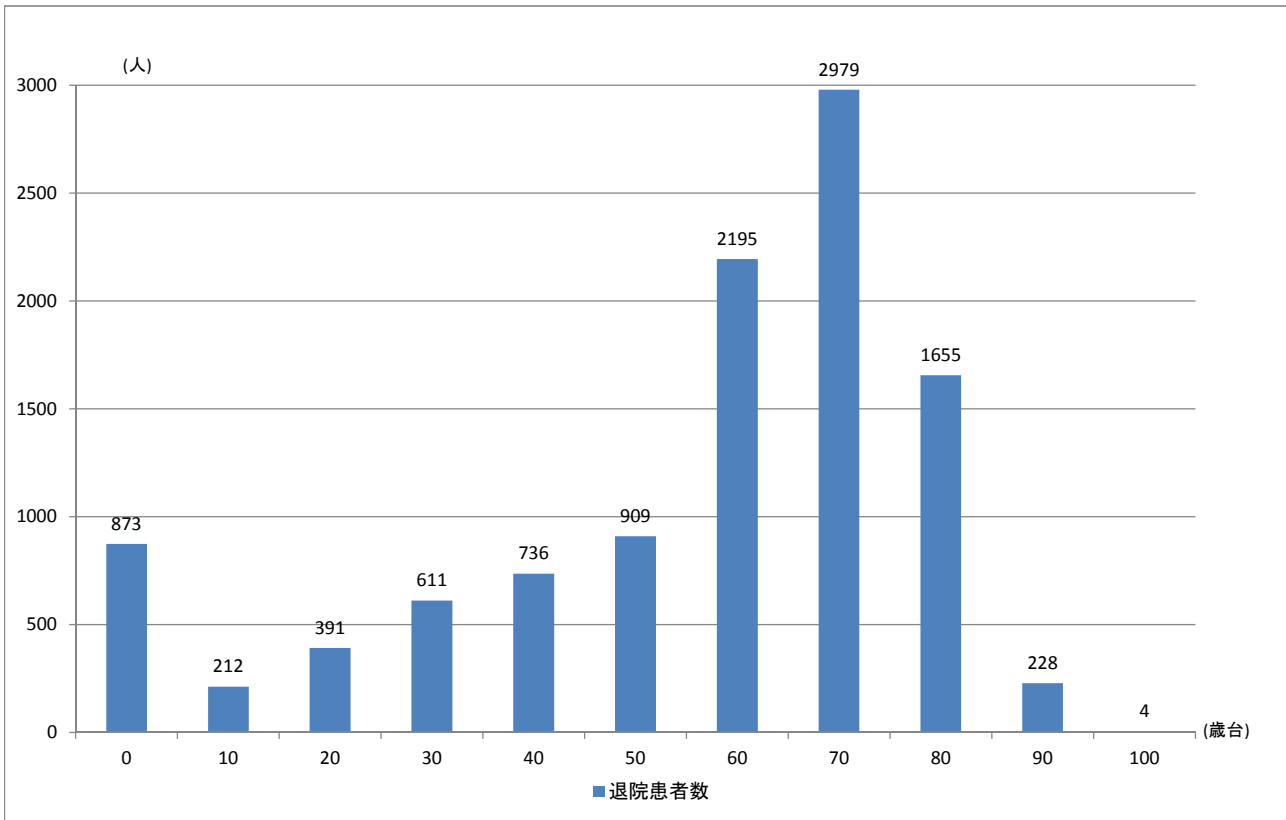
## 3 指標に対する集計期間と年齢

- ①集計期間……平成26年4月1日から平成27年3月31日の退院患者(DPC対象患者のみ)
- ②年齢……入院した時点の年齢(入院中に誕生日を迎えても加齢しない)

## 4 指標の項目

- ①年齢階層別退院患者数
- ②診療科別症例数トップ3
- ③初発5大癌の病期分類別ならびに再発患者数
- ④成人市中肺炎の重症度別患者数
- ⑤脳梗塞のICD-10別症例数
- ⑥診療科別主要手術の術前、術後日数症例数トップ3
- ⑦その他

# ①年齢階層別退院患者数



退院患者総数 =

## I 定義

①集計期間に退院した患者さんを集計の対象としています。(ただし、入院から退院まで精神病棟に入院していた患者さんは除きます。)

②年齢は、入院した時点の年齢で集計しています。

③「0歳台」は「0歳以上10歳未満」を指し、109歳まで10歳ごとの階層になっています。

## II 解説

60歳以降の患者の割合が全体の6割を超え、地域社会の高齢化を反映しています。また0歳以上10歳未満の患者数が比較的高くなっています。このうちの約3割が周産期に発生した病態および先天性の疾患によるものです。これは、東京都周産期連携病院としてリスクのある妊婦を受け入れていること、および新生児の入院に対応していることを示しています。

## ②診療科別症例数トップ3

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院 平院在院	転院率	平均年齢
呼吸器内科	040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上) 【特別な手術、処置を伴わないもの】	165	16.5	15.2	5.5%	75.2
	040040xx99100x	肺の悪性腫瘍 【気管支鏡などの検査を伴うもの】	117	4.4	3.3	0.0%	73.8
	040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 【特別な手術、処置を伴わないもの】	86	24.5	22.5	25.6%	80.6

・呼吸器内科においてもっとも多いのは肺炎による入院ですが、(西多摩医療圏内では肺がん診断、治療を行う病院が少ないため、)がん診断前の検査も含めると、(肺がんの症例が)肺炎を上回っています。なお、26年度から肺炎は、加齢に伴う嚥下能力低下から発症する『誤嚥性肺炎』が集計上分かれることとなり、呼吸器内科では症例数3位となっています。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院 平均在院	転院率	平均年齢
消化器内科	060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 【体外ドレナージ(排石、排液)などの実施を伴うもの】	91	15.4	11.7	2.2%	72.1
	060140xx97x00x	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの) 【胃、十二指腸の内視鏡下止血術などを伴うもの】	52	10.6	11.6	7.7%	71.0
	060050xx97x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む) 【選択的動脈化学塞栓術を伴うもの】	51	10.3	12.7	2.0%	70.6

・消化器内科では、肝臓、胆のう、胆管といった症例について、積極的に受入れを行っております。

なお、前年度症例数1位であった、大腸ポリープの内視鏡的切除を目的とした入院は、直腸の場合を除きDPCの対象から外れたため、ここでは集計の対象外となっています。

【参考】大腸(直腸を除く)ポリープの内視鏡的切除目的入院・・・311件

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院 平均在院	転院率	平均年齢
循環器内科	050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 【心臓カテーテル検査を伴うもの】	274	3.2	3.1	0.7%	67.6
	050070xx01x0xx	頻脈性不整脈 【心筋焼灼(心臓カテーテル治療)を伴うもの】	184	5.9	5.8	1.1%	63.8
	050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 【冠動脈形成(心臓カテーテル治療)などを伴うもの】	137	5.0	5.0	0.7%	68.7

・循環器内科では虚血性心疾患および不整脈に対し、心臓カテーテル治療を積極的に行っております。患者さんに対する侵襲性も軽いため、2-6泊程度の短期入院治療が可能であり、比較的、早期に退院が可能となっています。

## ②診療科別症例数トップ3

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
神経内科	010060x099030x	脳梗塞(JCS10未満) 【脳梗塞用薬剤(エダラボン製剤)の使用を伴うもの】	75	23.5	18.9	48.0%	72.4
	010060x099000x	脳梗塞(JCS10未満) 【特別な手術、処置を伴わないもの】	50	21.6	16.2	58.0%	77.4
	010230xx99x00x	てんかん 【特別な手術、処置を伴わないもの】	41	12.8	7.3	14.6%	64.3

・神経内科では、特に脳梗塞の患者さんを多く診ています。早期から回復期リハビリテーション施設へ移行することを念頭に診療を行い、地域との連携を図っています。急性期を脱し安定期に移行した患者さんの多くが、転院してリハビリを続けることとなります。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
腎臓内科	110280xx99010x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 【血液透析の導入初期であるもの】	46	17.9	16.4	2.2%	68.8
	110310xx99xxxx	腎臓または尿路の感染症手術なし 【特別な手術、処置を伴わないもの】	35	12.5	13.0	2.9%	71.2
	180040xx02x0xx	手術・処置等の合併症 【内シャント血栓除去術等実施を伴うもの】	29	2.7	3.4	20.7%	71.5

・腎臓内科では、血液透析の準備、導入時、またシャントトラブルなどがあるとき入院することがあります。その後は、患者さんの近隣の透析専門クリニック等で引き続き、定期的な血液透析を行っていただくこと継続していくこととなります。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
内分泌糖尿病内科	100070xxxxxxxx	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)	222	11.0	16.1	1.4%	62.4
	100060xxxxxxxx	1型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)	18	11.7	15.4	5.6%	49.5
	100180xx99000x	副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍 【特別な手術、処置を伴わないもの】	18	4.3	6.1	0.0%	54.7

・内分泌糖尿病内科では、糖尿病の教育を目的とした入院を多く受け入れています。また、その他の内分泌疾患の緊急入院や検査入院にも対応しております。

## ②診療科別症例数トップ3

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	川群病院平均在院	転院率	平均年齢
血液内科	130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫 【抗悪性腫瘍剤(リツキシマブ製剤)投与があるもの】	95	15.5	19.3	5.3%	73.8
	130010xx97x2xx	急性白血病手術あり 【輸血および化学療法(抗悪性腫瘍剤投与)があるもの】	48	35.6	43.8	0.0%	63.2
	130030xx97x40x	非ホジキンリンパ腫 【輸血及び抗悪性腫瘍剤(リツキシマブ製剤)投与があるもの】	31	21.8	41.5	0.0%	65.3

・血液内科では、リンパ腫の患者さんが多く入院しています。  
リツキサン(リツキシマブ製剤)の登場により、1回の入院日数が減り、患者さんのQOL(生活の質)が上がっています。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	川群病院平均在院	転院率	平均年齢
リウマチ科	070560xx99x0xx	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患 【特別な手術、処置を伴わないもの】	37	19.8	19.0	2.7%	52.7
	040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上) 【特別な手術、処置を伴わないもの】	21	18.1	15.2	4.8%	75.3
	070470xx99x0xx	関節リウマチ 【特別な手術、処置を伴わないもの】	16	3.5	15.7	0.0%	50.6

・リウマチ科では、リウマチやSLE(全身性エリテマトーデス)を始め、多様な病態の患者さんを受けています。  
特に原因となる疾患から別の疾患を罹病した場合も、リウマチ科と他科において積極的に連携して患者さんの治療にあたります。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	川群病院平均在院	転院率	平均年齢
外科	060035xx0100xx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 【結腸全切除、垂切除、又は悪性腫瘍手術等の実施を伴うもの】	52	17.3	18.6	0.0%	72.2
	060210xx99000x	腸閉塞 【特別な手術、処置を伴わないもの】	45	9.7	9.2	0.0%	68.3
	060150xx03xx0x	虫垂炎 【虫垂周囲膿瘍が無い虫垂切除術の実施を伴うもの】	52	11.3	5.7	3.8%	68.9

・外科では、ここにあるような虫垂炎や腸閉塞などに対する緊急手術、処置はもちろんのこと、各種の消化器がん手術や血管手術なども行っており、非常に幅広い疾患に対応しています。  
なお、前年度症例数1位であった、鼠径ヘルニア切除を目的とした入院は、今年度よりDPCの対象から外れたため、ここでは集計の対象外となっています。

[【参考】鼠径ヘルニア\(15歳以上\)切除目的入院…112件](#)

## ②診療科別症例数トップ3

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
脳神経外科	010040x099x00x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 【特別な手術、処置を伴わないもの】	41	25.3	20.8	53.7%	66.3
	160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 【脳室ドレナージ(排出)などの実施を伴うもの】	29	17.7	10.4	20.7%	81.3
	010040x099x00x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 【特別な手術、処置を伴わないもの】	22	21.1	20.8	40.9%	70.7

・脳神経外科では、手術の実施はもちろんのこと、患者さんやご家族の意向も踏まえ、保存的治療(手術を実施しないこと)も多くおこなっております。  
また、同じ脳疾患を扱う神経内科同様に転院の割合も高く、多くの場合、転院先でリハビリを継続することとなります。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
呼吸器外科	040040xx97x0xx	肺の悪性腫瘍 【肺切除手術を実施するもの】	39	15.0	13.9	0.0%	67.1
	040200xx01x00x	気胸 【肺切除手術を実施するもの】	11	13.5	10.0	0.0%	28.4

・呼吸器外科では、肺の手術を行っています。  
呼吸器内科で診断された患者さんを手術することが多く、呼吸器内科と緊密な連携をとっています。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
心臓血管外科	050080xx01010x	弁膜症 【開胸による弁形成や置換術、およびそれに伴い人工呼吸等の実施があるもの】	17	24.3	26.8	0.0%	69.6
	050050xx0111xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 【開胸により冠動脈形成術等を実施し、かつ心臓カテーテル検査および人工呼吸等の実施があるもの】	13	27.8	29.7	7.7%	72.1

・心臓血管外科では、心臓の手術を行っています。  
主に循環器内科におけるカテーテル治療の適応ではない、外科手術を必要とする患者さんを受け入れています。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
整形外科	160800xx01xxxx	大腿骨頸部骨折 【人工骨頭を挿入するもの】	66	34.0	30.3	53.0%	76.6
	07040xx01xx0x	変形性股関節症等 【股関節を置換するもの】	20	28.0	26.8	10.0%	70.3
	160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 【特別な手術、処置を伴わないもの】	17	24.6	22.5	47.1%	76.9

・整形外科では、股関節手術を多くおこなっております。  
大腿骨頸部骨折の手術を行った場合は、多くがリハビリテーション目的に転院することとなります。

### ③初発の5大がんの病期分類別ならびに再発患者数

初・再 部位	初 発 の 病 期 分 類						再発	患者数 合計
	0	I	II	III	IV	不明		
胃がん	2	49	9	19	22	2	9	112
大腸がん	13	37	32	35	22	7	16	162
肺がん	1	28	5	32	60	2	30	158
乳がん	2	19	21	6	2	0	2	52
肝がん	0	4	12	3	4	3	31	57

#### I 定義

- ①集計期間中に退院した患者さんが対象です。実患者数を集計しています。期間中に同じ患者さんが同じがんで入退院を繰り返しても1件と数えます。
- ②初発の病期分類は、がん取扱い規約に基づき分類しています。
- ③集計期間中に初発として集計されたものは、再発には集計しません。
- ④病期分類が確定される前に亡くなられた場合等は、病期分類は【不明】となります。

#### II 解説

前年度は肺がんが最も多かったのに対し、今年度は大腸がんがわずかに肺がんを上回る結果となりました。病期は、大腸がんは0期も含め満遍なく分布しているのに対し、肺がんはⅢ、Ⅳ期で初発の7割を占めています。

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」として様々ながんの治療を積極的に行っており、手術だけでなく、化学療法や放射線治療も行っています。

また緩和ケアについても、専任の医師、看護師およびケースワーカー等の多職種で構成されたチームが中心となり、悪性疾患と告知されたときから始まる「全人的な」サポートを行っています。

## ②診療科別症例数トップ3

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
産婦人科	120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 【帝王切開術等により出産となるもの】	72	9.4	10.1	0.0%	32.5
	120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍(子宮筋腫等) 【子宮を摘出するもの】	58	9.2	10.5	0.0%	45.0
	120140xxxxxxxx	流産 【流産手術を伴うもの】	55	2.0	2.4	0.0%	34.3

・産婦人科では、特に妊婦さんを多く受け入れていることから、帝王切開をする場合や、また残念ながら流産となった場合を含め、入院管理をする患者さんの数も多くなっています。  
 なお、保険診療ではないため症例数に挙がりませんが、ここにある症例数以上に自然分娩で出産される妊婦さんがいらっしゃいます。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
皮膚科		(※10症例以上の該当無し)					

・皮膚科では、入院治療の担当科となることは少なく、他科に入院している患者さんの皮膚疾患管理というサポート的役割が多くなっています。  
 特に高齢の方は、褥瘡(じよくそう)、いわゆる床ずれから感染して重大な疾患に繋がることもあり、皮膚疾患管理という役割は決して小さくはありません。

診療科	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数	Ⅲ群病院平均在院	転院率	平均年齢
泌尿器科	110070xx0200xx	膀胱腫瘍 【経尿道的に腫瘍切除を実施するもの】	79	9.6	8.0	0.0%	69.8
	11012xxx020x0x	上部尿路疾患(尿路結石、腎結石等) 【尿道からの結石除去を行うもの】	26	6.3	6.0	0.0%	63.8
	110060xx99x20x	腎盂・尿管の悪性腫瘍 【化学療法の実施を行うもの】	24	11.0	13.2	0.0%	71.1

・泌尿器科では、膀胱癌の患者さんに対して尿道を経て切除する手術を初め、尿路・腎結石の患者さんに対して尿道からの結石除去術を行うなど、非開腹手術が多いことが特徴です。  
 なお、前年度症例数1位であった、前立腺の悪性腫瘍診断を目的とした入院は、今年度よりDPCの対象から外れたため、ここでは集計の対象外となっています。

[【参考】前立腺の悪性腫瘍・針検査\(診断\)目的入院・・・157件](#)



## ④成人市中肺炎の重症度別患者数

	症例数	平均在院日数	平均年齢	退院患者総数=195
軽症	30	10.6	61.3	
中等症	110	16.9	75.6	
重症	40	22.1	81.6	
超重症	12	15.4	83.4	
不明	3	17.0	73.8	
合計	195	16.9	75.1	

### I 定義

- ①集計期間に退院した患者さんを対象にしています。
- ②この集計での成人とは、15歳以上の患者さんを指します。
- ③市中肺炎とは、普段の生活の中で罹患した肺炎を指します。
- ④入院契機傷病名および最も医療資源を投入した傷病名が、『肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（DPCコード040080）』であるものが対象です。※インフルエンザ等のウイルス性肺炎（DPCコード040070）、誤嚥性肺炎（DPCコード040081）は対象外。
- ⑤重症度は、日本呼吸器学会による「市中肺炎ガイドライン」の重症度システム（A-DROP）に基づき分類しました。これは、血中尿素窒素、動脈血酸素飽和度等の7つの因子をそれぞれ評価し、判定するものです。因子に1つでも不明があると、重症度は不明となります。

### II 解説

症例数では今年度も中等症の割合が最も多いものですが、前年度から、人数およびそれに伴う割合ともに減少しています。

平均在院日数は「不明」を除く、軽症～重症のすべての重症度で短縮されており、全体では昨年度と比べて2.6日の日数減となっています。

市中肺炎の治療は適切な抗菌薬の選択が重要になりますが、当院では多職種で構成する抗菌薬適正使用部会を中心に適切な使用を推進しています。

## ⑤脳梗塞のICD-10別症例数

ICD-10	最も医療資源を投入した傷病名	発症日から	症例数	平均在院日数	平均年齢	転院率
G45\$	一過性脳虚血発作および関連症候群	3日以内	18	7.8	69.1	5.6%
		その他	0			
G46\$	脳血管疾患における脳の血管(性)症候群	3日以内	0			
		その他	0			
I63\$	脳梗塞	3日以内	190	24.8	73.9	54.2%
		その他	9	55.9	67.7	55.6%
I65\$	脳実質外動脈の閉塞および狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	—	2	7.5	76.5	0.0%
I66\$	脳動脈の閉塞および狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	—	1	9.0	67.2	0.0%
I675	もやもや病<ウイリス動脈輪閉塞症>	—	0			
I679	脳血管疾患、詳細不明	—	1	5.0	72.5	0.0%

### I 定義

- ①集計期間に退院した患者さんを対象としています。
- ②ICD-10とは『国際疾病分類・第10回修正版』のことであって、死亡や疾病のデータの体系的な分析・解釈および比較を行うためにWHO(世界保健機関)により1990年に採択された国際基準です。

### II 解説

当院では、全体の8割を超える症例について、発症から3日以内に治療を開始しています。迅速に治療を開始することで早期離床に繋がり、リハビリテーションを開始することが出来ます。また、その後の回復期のリハビリテーションへスムーズに移行することにより、発症後のADL(日常生活動作)障害が軽減されます。そのため脳卒中診療の基幹病院として、緊急に治療が必要な急性期の患者さんを常に受け入れることが出来るように、体制の確保に努めています。当院での治療後は、重症度に応じて自宅退院、回復期リハビリテーション専門病院への転院へ移行となりますが、転院の際には「脳卒中連携パス」を用いて、地域の医療機関と情報共有を図るとともに、継ぎ目のない医療を実現するためにケースワーカーを中心に退院の調整を行っています。

## ⑥診療科別主要手術の術前、術後日数症例数トップ3

### 【消化器内科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K7211	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル未満	287	0.3	1.3	0.0%	67.7	・大腸ポリープ
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	112	5.7	14.0	7.4%	75.0	・閉塞性黄疸 ・急性胆管炎 等
K654	内視鏡的消化管止血術	108	2.7	12.0	2.9%	70.9	・上部消化管出血 ・胃潰瘍 等

### 【循環器内科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	146	4.8	4.1	0.7%	69.2	・狭心症 ・陳旧性心筋梗塞 等
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術 心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの	138	2.5	3.0	0.0%	65.8	・心房細動 ・心室頻拍 等
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術 不安定狭心症に対するもの	65	0.2	9.8	1.6%	70.5	・不安定狭心症

### 【腎臓内科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K610-3	内シャント設置術	65	6.6	10.1	6.3%	67.7	・慢性腎不全
K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	36	1.6	2.6	14.3%	71.6	・透析シャント狭窄 (慢性腎不全 シャント造設後)

※10症例以上を集計の対象としています。  
※退院時診療科で集計しているため、必ずしも『診療科』=『手術実施科』ではありません。

## ⑥診療科別主要手術の術前、術後日数症例数トップ3

### 【外科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K6335	ヘルニア手術 鼠径ヘルニア	124	1.3	2.5	0.8%	68.6	・鼠径ヘルニア
K7193	結腸切除術(全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術)	56	5.6	14.0	0.0%	72.5	・結腸(盲腸～S状結腸)がん 他
K672	胆嚢摘出術	54	3.2	14.4	1.9%	71.2	・胆のう結石症 他

### 【脳神経外科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	37	1.2	14.2	13.9%	79.4	・慢性硬膜下血腫 (外傷性・非外傷性)
K145	穿頭脳室ドレナージ術	23	7.6	44.8	81.0%	63.8	・水頭症 ・脳内出血 等
K1742	水頭症手術 シャント手術	16	27.9	28.6	81.3%	65.1	・水頭症

### 【呼吸器外科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K5143	肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	29	2.8	15.6	0.0%	69.4	・肺がん
K5131	胸腔鏡下肺切除術 肺嚢胞手術(楔状部分切除によるもの)	13	9.8	6.4	0.0%	32.2	・気胸

※10症例以上を集計の対象としています。  
 ※退院時診療科で集計しているため、必ずしも『診療科』=『手術実施科』ではありません。

## ⑥診療科別主要手術の術前、術後日数症例数トップ3

### 【心臓血管外科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K5551	弁置換術 1弁のもの	19	6.5	19.7	0.0%	76.4	・弁閉鎖不全症 等
K552-22	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないもの) 2吻合以上のもの	14	5.6	23.8	14.3%	73.4	・狭心症 ・心筋梗塞 等

### 【整形外科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K0461	骨折観血的手術 大腿	67	6.2	28.9	40.0%	75.3	・大腿骨近位端骨折 ・大腿骨骨幹部骨折 等
K0462	骨折観血的手術 前腕、下腿	30	5.0	16.3	13.3%	58.3	・下腿骨骨折 ・前腕骨骨折 等
K0821	人工関節置換術 股	24	6.5	24.3	8.3%	70.4	・変形性股関節症 等

### 【産婦人科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K8881	子宮附属器腫瘍摘出術 開腹によるもの	104	2.0	7.9	1.0%	51.2	・卵巣のう腫 ・卵巣腫瘍
K877	子宮全摘術	96	2.0	7.5	1.0%	50.9	・子宮筋腫 ・子宮体がん 等
K8982	帝王切開術 選択帝王切開	94	9.6	6.6	0.0%	32.6	・骨盤位 ・既往帝王切開分娩 等

※10症例以上を集計の対象としています。  
 ※退院時診療科で集計しているため、必ずしも『診療科』=『手術実施科』ではありません。

## ⑥診療科別主要手術の術前、術後日数症例数トップ3

### 【泌尿器科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K8036□	膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	80	1.9	6.7	0.0%	70.1	・膀胱がん
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	62	1.3	5.6	0.0%	66.7	・水腎症 ・尿管狭窄
K7811	経尿道的尿路結石除去術 レーザーによるもの	26	1.7	3.5	0.0%	64.3	・腎結石症 ・尿管結石症

### 【眼科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K2821□	水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 その他のもの	274	1.0	2.0	0.0%	75.2	・白内障

### 【耳鼻いんこう科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K3772	口蓋扁桃手術 摘出	37	2.0	8.1	0.0%	24.6	・慢性扁桃炎 等
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	30	0.4	4.5	0.0%	39.2	・扁桃周囲膿瘍
K386	気管切開術	16	0.9	22.2	25.0%	76.6	・口腔癌 等

### 【救急科】

Kコード	名称	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	適応病名
K0004	創傷処理(筋肉、臓器に達しない) (長径5cm未満)	12	0.0	5.4	45.5%	61.1	・各部位、切創・挫創

※10症例以上を集計の対象としています。

※退院時診療科で集計しているため、必ずしも『診療科』=『手術実施科』ではありません。

H26年度

## ⑦その他

D P C	最も医療資源を投じた傷病名	入院契機病名との異同	患者数	発症率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	4	0.04%
		異なる	15	0.14%
180010	敗血症(1歳以上)	同一	40	0.37%
		異なる	23	0.21%
180035	その他の真菌症	同一	0	0.00%
		異なる	1	0.01%
180040	処置・手術等の合併症	同一	78	0.72%
		異なる	2	0.02%